

# 理工学府博士課程前期の 初年度入学学生の修了を 迎えます



工学研究院長 梅澤 修

大学の基本的役割は「知の創造」と「人材の育成」であり、これらの質を高め、社会要求に応えることで大学の存在価値を示すことが本質と考えます。すなわち、基礎・先端研究教育を拡充して、社会に貢献する人材養成教育につなげていくことが基本になります。また、長谷部学長より「国際水準の研究大学を目指す」という将来目標が提示されております。工学研究院・理工学府といたしましても、活気ある教育・研究の実施、国際競争力のある研究展開、イノベーティブ人材の輩出を先導して実現するべく、長年にわたる工学部・工学研究院での取り組みを引き継いで参ります。

2018年4月1日に発足した理工学府は、設置2年目を迎えております。2019年度においても、博士課程前期および後期ともに理工学府学生定員を充足する予定です。年度末には、理工学府としての最初の博士課程前期学生の修了を迎えることとなり、工学の学位に加えて、化学、物理、数学の領域で理学の学位授与となります。

緑あふれる常盤台キャンパスも40年の時を刻んできました。2019年は、3月末にシェアルームタイプの学生寮である常盤台インターナショナルレジデンスがオープンしました。秋学期からは工学基礎研究棟および化学棟（旧物質工学科化学棟）の改修工事が、11月末には西門および北門からの最寄り駅となる羽沢横浜国大駅の開業が予定されています。

学生の皆さんが、様々な教育研究を通じて課題の壁に悩み、そして自ら乗り越えることで小さな成功体験を積むこと、己の常識や世界観と異なる経験や体験を得ることを期待しています。初めは与えられた課題であっても、しばらく取り組んでみることで意義を見いだして自ら脱皮する、時には失敗して手痛い目にあったとしても、立ち上がってさらに前に進むことで、次第に多くのことを学んでいく、このように前進する過程で、人は新しい発見をし、その時、世界を見る視点を与える階段を一步上がったように感じ、今までよりも広い視野を得ることにつながります。

1963年に発足した工学研究科以来の修了者は約15,000人となり、世界中で活躍されています。予見される令和時代の「ものづくり」に対して中心的・先導的に貢献できる人材やイノベーションの創出を担う人材の育成につながるよう、「名教自然」の理念のもと培われた伝統を大切に、工学研究院・理工学府の教職員一同、実践的研究の拠点へと一步一步前進してまいりたいと存じます。